



# おさかな瓦版

No. 57  
2014.1

かわ みずうみ だい かい  
シリーズ：川や湖のさかなたち 第2回

## ワカサギ



ふっくんのなんでもコーナー

しょうがつ りょうり た  
お正月、おせち料理食べたかな？

ちい こ およ はじ  
小さなサケの子どもたちがもうすぐ泳ぎ始めるよ！

# ワカサギ

～冬の風物詩～

ワカサギは冬の凍った湖に穴をあけて釣る「穴釣り」で有名です(📷1)。おとなになっても大きさは10～15センチほどで、細長い体をしています。とてもおいしく、天ぷら、フライ、なんばん漬、つくだ煮などの料理で知られています。

ワカサギというと湖の魚というイメージ

が強いと思いますが、実はサケと同じように、川でふ化した後に海へすみかを変えて成長し、産卵するため川に上るといった習性があります。

しかし、海とつながっていない湖に放流されたワカサギは、湖で成長します。北海道の網走湖のように海と川でつながっている湖のワカサギは、川でふ化して湖に下り、そのま



📷 1. 湖での穴釣り



📷 網走湖のワカサギの



あんじい  
ワンポイント  
アドバイス

あんじい：ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です

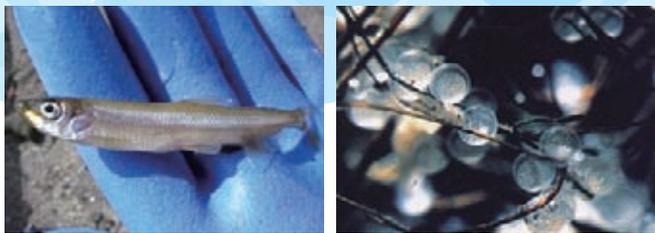
## ワカサギから Wakasagi へ

ワカサギがいるのは国内では北海道、太平洋側では関東地方から北、日本海側では島根県から北といわれていたんじゃ。だが、漁業や釣りのために、100年ぐらい前から、もともとすんでいた場所とはちがう川や湖などへ放流されたんじゃ。今は鹿児島県にもいるぞ。なんと、1959年にはアメリカのカリフォルニア州にも日本のワカサギが放流されたんじゃ。今や現地では「Wakasagi (わかさぎ)」と呼ばれているそうじゃ。



Wakasagi

(写真提供：長野県水産試験場諏訪支場)



📷 2. ワカサギ(左)とその卵(右)

(写真提供：長野県水産試験場諏訪支場)



📷 3. 諏訪湖の投網漁

(写真提供：長野県水産試験場諏訪支場)

ま生活するもの(①)と、海に向かうもの(②)

に分かれます(📷)。海へ行ったワカサギは冬

に再び湖へ戻り、湖にとどまったものと同じ

ように、春になると産卵のために川を上ります。

卵は1ミリほどの大きさで、水中の水草、

石、枯れ木などに産み付けられます(📷2)。

寿命は1~2年。動物プランクトンや水中

でくらす昆虫、魚の卵などを

食べます。

ワカサギは、川や湖での漁

業の重要な魚です。ひき網や

定置網で獲ることが多いですが、

長野県の諏訪湖のような

浅い湖では、船の上から網

を投げ入れる「投網漁」が盛

んに行われています(📷3)。

漁獲されたワカサギの多くは、

つくだ煮などに加工され、地

域の特産品として販売されます。

釣って楽しい(📷チェック)、食べておい

しいワカサギですが、漁獲量は年によって多

かったり少なかったり、安定していません。ワ

カサギの赤ちゃんは、数日でもエサをとれない

と死んでしまいます。そのため、生まれたとき

にエサのプランクトンがたくさんいたかどうか

が、漁獲量が安定しない原因のひとつではな

いかと考えられています。

水産総合研究センターでは、ワカサギが減

らないよう、エサの生物

との関係や、人間が卵

から魚を育てて放流す

る技術について研究し

ています。



みやもと こうた (宮本 幸太)



海へ下る

くらし



“新”冬の風物詩!?! 「ドーム船」

ワカサギ釣りは氷上の穴釣りのように、寒いイメージがあるかと思いますが。最近では、「ドーム船」でのワカサギ釣りがブームとなっています。中は暖かくて、トイレも完備。子どもからお年寄りまで楽しめます。



な、なに… 船!?!  
今はいんらん楽しみ方が  
あるんだね…



(写真提供：長野県水産試験場諏訪支場)

# しょうがつ しょうがっ お正月、おせち料理食べたかな？

ふっくんの  
なんでもコーナー



おせち料理には、多くの海産物が使われています。  
それぞれ、いろいろな意味や願いが込められています。

**タイ**  
お祝いごとの定番。  
めでたいに通じるから



**ブリの焼き物**  
出世魚であること  
から出世を祈願して



**エビ**  
腰が曲がるまで  
長生きするように



**田作り**  
カタクチイワシの稚魚は、  
昔、肥料として使われ、ゴ  
マメ（五万米=ごまめ）と  
も。豊作を祈願して

**数の子**  
数の子はニシンの卵。  
子孫繁栄を願って

**昆布巻き**  
コンブと「よるこぶ」という語る合わせ  
（「子生婦」という字をあてる場合も）。  
一家の幸せと、子孫繁栄を祈って



「さけの里ふれあい広場」だより

※切手の写真：サケをねらうオジロワシ

小さなサケの子どもたちがもうすぐ泳ぎ始めるよ！

『さけの里ふれあい広場』の周辺は雪でまっ白になり、一面の銀世界  
が広がっています。冷たい川の底では、産卵を終えた親サケたちが力つきて横たわ  
り（右の写真）、川岸の木の上では、それをねらうオジロワシの姿も見かけられます。



展示水槽では、11月にふ化したサケの赤ちゃんたちが順調に育っています。赤ちゃんは砂利  
の中でお母さんからもらった栄養を吸収して大きくなり、1月の初めごろには泳ぎ始めます。

春の旅立ちを待つかわいいサケの子どもたちと会いにきませんか？



◀おなかに赤い栄養  
の袋を付けている  
間は、砂利の中  
でじっとしています

▶赤い袋が小さく  
なって見えなくな  
ると、砂利から出  
て、エサを求めて  
泳ぎ始めます



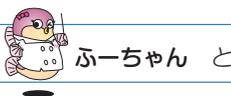
●北海道区水産研究所『さけの里ふれあい広場』

〒066-0068 北海道千歳市蘭越9番  
☎ 0123-23-2804



千歳駅、千歳IC（インターチェンジ）から支笏湖へ向かって車で約15分。

▶ウェブサイト：<http://salmon.fra.affrc.go.jp/youran/fureai/fureaihiroba.htm>



ふーちゃん と



ふっくん：あんじい仙人のもとで修行している研究員です

## おさかな瓦版 No.57 (2014年1月発行)

編集・発行：独立行政法人 水産総合研究センター  
質問の送り先・お問い合わせ先：広報室

〒220-6115 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3  
クイーンズタワーB 15階

TEL. 045-227-2600 FAX. 045-227-2702  
ウェブサイト <http://www.fra.affrc.go.jp/>

さかなやエビ、カニなどの水産動物や海藻のこ  
とでわからないことがあったら、広報室までハガ  
キを送ってね。＜聞きたいことの内容＞、＜学年＞、  
＜住所＞、＜名前＞を忘れずに書いてね。ふっくん  
が「なんでもコーナー」でお答えします。



水産庁の主催する魚の国のしあわせプロジェクトに参加しています

表紙写真



丹沢湖のワカサギ

(写真：NPO法人神奈川ウォーターネットワーク 山崎 泰)

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。